



Karuselli 1973

克 脇 二 阪

北欧の夢 ニューヨークの洗練 日本の情緒
脇阪克二テキスタイルデザインの世界 女子美コレクションを中心に
2008 5.17 SAT~6.29 SUN 10:00~17:00

入 場 料：一般 300円（学生、未就学児、65歳以上、身体障害者手帳をお持ちの方は無料）入場は16:30まで 休館日：火曜日
会 場：女子美アートミュージアム

主催：女子美術大学・女子美術大学美術館 協賛：Marimekko Corporation、株式会社ルック、Cowtan & Tout、株式会社ワコール、藤山株式会社、大田州製紙協業組合 協力：若林株式会社/SOU・SOU、辻村久信デザイン事務所+株式会社ムーンバランス、株式会社リブアート、ギャラリーc o m o、ハートクリエーション、福音館書店、ヴァグリエ、アサヒ飲料株式会社 後援：フィンランド大使館、相模原市・相模原市教育委員会、エプテク応用科学大学アート・デザイン学院、日本テキスタイルデザイン協会、日本テキスタイルカウンシル、服飾文化学会、国画会工芸部、どりーむ編集局、婦人之友社、文化出版局（季刊「銀花」） 助成：財団法人 花王芸術・科学財団、財団法人 野村国際文化財団

marimekko®

■ LARSEN

Wacoal

JAM

「北欧の澄んだ空気と自然、素朴でぬくもりのあるフィンランド。

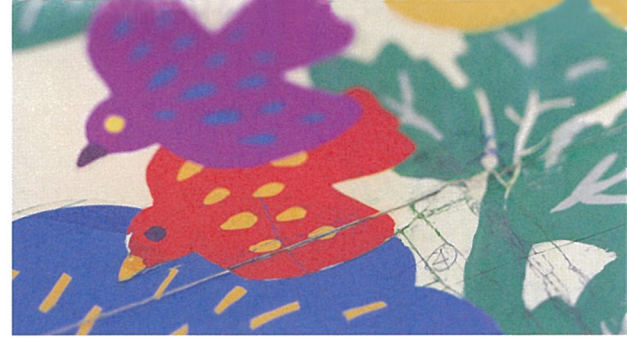
その地にあるマリメッコ社の大胆で色鮮やかなプリント布に夢を見て、旅立ったこと・・・

世界の才能が集まり、しのぎを削るニューヨーク。

ラーセン社の大人の品格を持つ、洗練されたファブリックに魅せられたこと・・・

四季の豊かさとしっとりとした気候が生み出す、細やかな情緒の世界を持つ日本。

ワコールインテリアファブリックに20年にわたり関わったこと・・・」（脇阪克二の談話より）



バード(原画部分)1990

今から約40年前、日本のプリント布は、パターン自体に重きを置くことは無く、

小花や動物等、誰がどこで使っても無難で目立たない柄がほとんどでした。

そのような時代に脇阪克二は欧米に渡り、マリメッコ社、ジャック・レノア・ラーセン社にデザイナーとして在籍しました。

また、株式会社ワコールインテリアファブリックと契約して斬新なデザインのテキスタイルプリントを発表しました。

テキスタイルにおいて世界有数のこの三社に在籍した日本人は脇阪ただ一人です。

本展覧会では、当館のコレクションを中心に脇阪克二がデザインした布と手描きによるデザイン原画を展示します。

フィンランド、アメリカ、日本それぞれの国の文化の違いや在り方を通して、

脇阪が感じたこと、表現してきたものを追いつつ、そのデザインの原点を探ります。

展覧会をきっかけとしてテキスタイルデザインの仕事、および生活の場に明るさを与えるプリント布の魅力を伝えることができれば幸いです。

Epergne(原画部分)1977



脇阪 克二

略歴

1944年 京都市生まれ

1968～1976年 マリメッコ社、デザイナーとして在籍

1976～1985年 ジャック・レノア・ラーセン社、デザイナーとして在籍

1976～1996年 株式会社ワコール インテリアファブリックと契約

2002年～現在 S O U・S O Uテキスタイルデザイナー

2005年～現在 京都造形芸術大学 美術工芸学科 染織テキスタイルコース 客員教授

marimekko®

マリメッコ社について

1951年、マリメッコ社はその前身である「プリンテックス社」からアルミ・ラティア氏によって「斬新・ユニーク・飽きのこない・美しい」商品を戦後のフィンランドに生み出したいという強い思いをコンセプトとしてテキスタイルプリントの別会社として誕生しました。鮮やかな配色と図柄が印象的なテキスタイルは、性別・年齢を超えて、世界中の人々から確固たる評価を得ており、デザイナーとして、マイヤ・イソラやヴォッコ・ヌルメスニエミを始めとした、数多くの著名デザイナーを輩出し続けています。

LARSEN

ジャック・レノア・ラーセン社について

テキスタイルデザイナー、美術品収集家として国際的に有名なジャック・レノア・ラーセン氏は自身の名前を冠した会社を1952年に創設しました。その後50年間にわたり着実に成長を続け、国際的デザイン市場の中で高級織物における圧倒的な地位を占めたラーセン社は、織物デザインの革新者として多数の受賞歴を持ち、デザイン会社として、フランス・ルーブル宮殿での展覧会開催という榮譽にも輝きました。1997年にラーセン社は、カウタン・アンド・タウト社と合併し、現在は同社が旧ラーセン社のすべての意匠を受け継いでいます。

関連企画

・スライドレクチャー「フィンランドにおけるファブリックの歴史」

日時：2008年6月6日(金)11:00～12:30

講師：キルシ・ニイニマキ氏 本学学術交流協定校 エプテック応用科学大学アート・デザイン学院(フィンランド)主任講師

定員：50名

・トークイベント「フィンランド・ニューヨーク・日本のテキスタイル文化や生活から生まれる色と柄」

日時：2008年6月6日(金)15:00～16:30

講師：脇阪克二(テキスタイルデザイナー)、小松修(画家)、堀井和子(食文化研究家)、三原佳子(日本刺繍家)

進行：大澤美樹子(本学教授)

定員：50名

・ワークショップⅠ

子どもワークショップ「脇阪さんのデザインから物語をつくろう」

内容：おしゃべりをしながら展覧会をみた後、みんなで物語をつくります。

日時：2008年6月7日(土)13:30～16:30

対象：小学校3～6年生

定員：20名

・ワークショップⅡ

女子美生企画「布をつないでアートな日」

内容：色々な形をつないでテーブルマットやノートをつくります。

日時：2008年6月14日(土)13:30～16:30

対象：小学生～大人まで

定員：20名

交通：

小田急線相模大野駅下車

神奈川中央交通バス

駅前バス乗場3番「女子美術大学行き」約20分

※平日午前10時前は伊勢丹デパート横

グリーンホール4番乗場より発車

いずれのイベントも参加費は入場料のみ。

↓申し込み方法

① 氏名 ② 年齢(子どもワークショップは学年も記入) ③ 住所

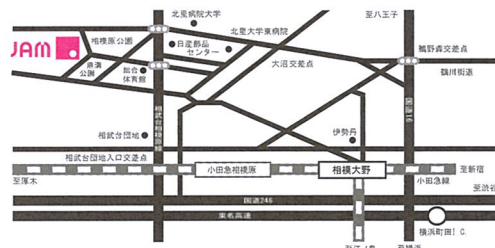
④ 電話番号 ⑤ メールアドレス ⑥ 希望するイベント名

上記をEメール・FAX・電話のいずれかの方法でお申し込みください。

定員になり次第、受付けを終了いたします。

↓申し込み先

Eメール: bsk@joshibi.ac.jp FAX: 042-778-6815 電話: 042-778-6801



JAM